

琵琶湖ヨット倶楽部週報(10-6-23号)

(1) 船庫再築

先週の週報で六月十三日から着手する、十六日には完成になるとも書いたのが、見らねると豫報して置いたが、実際、大工の都合で未着手となつてゐたため、十六日の末岡諸氏には不勘、失望した方があつたことと深く遺憾に思つております。其の後上田氏の御斡旋で、愈十九日から着工し始めました。十九日は四人の人手で基礎の整理にかかりました。天候さよふけの日は順調に進んでせう、大工や土木仕事は着工の日を造るべく二十日を過ぎると十九日迄行なはならなかつたさうです。土木は土木の法があるから致方がありまゝまい。Well begun is half done は何事にも共通でせう。

(2) 再い会計について

船庫再築を機に会計の報告を(宮城担当以来の)致します。申立書のある方は細大漏さずお知らせ下さい。

(3) 吉本の雄琴氏の遠航

お続く晴天と日々 regular な風向と毎夜の月明と微風の觸感とは限りなく吉本氏の帆走欲をそつたのでせう。単独で突然に 12ft 艇を操縦して遠航に出かけました。

十三日の夜は長余寺に仮泊し、十四日沖の島——中走と沖、島水道を通るには餘程風を見ねばならぬ——水道を通過、白石を廻つて右横に入港。心憎きまてに澄ぼつた月を心ゆくまで楽しんで、十五日は沖、島沖に 10^m の風が惱まされたか之を棄つて夜十時雄琴に入り、出迎の同人社勢の五米艇と歓談を交はし、翌十六日皆が船庫に集り、何の疲もなしに莞爾として柳ヶ崎に帰着、帰着直に D.Y.C. や B.Y.S. の遠航五米艇、十二呎六艇の fleet を編制、之を指揮して山田、雄琴、柳ヶ崎の遠航を完成したさうです。岡氏以上の単独遠航に當めた経験は又我等が今後の参考となる処多々あるべく、その詳細の報告後記を期待するものである。

因に云ふ所は六月十三日スカンツの琵琶湖一周を完了したる